

原子力リスク研究センター (NRRC) 第 33 回 技術会議 議事録

1. 日 時 : 2021 年 2 月 5 日 (金) 10 : 00 ~ 12 : 00
2. 場 所 : Web 会議 (電力中央研究所 原子力リスク研究センター 会議室)
3. 出席者 (順不同、敬称略)
 - 主査 : 植田 (NRRC)
 - 委員 : 田口 (牧野代理 : 北海道電力)、金澤 (東北電力)、
谷・山本 (東京電力HD)、中川・渡辺 (伊原代理 : 中部電力)、
福村 (北陸電力)、宮田・吉原・岩森 (多田代理 : 関西電力)、
山本 (中国電力)、渡辺 (四国電力)、本田 (九州電力)、
五十嵐 (山口代理 : 日本原電)、大柿 (日本原燃)、石倉 (電源開発)、
河村 (東芝)、滝井 (日立GE)、池田 (三菱重工)、中熊 (電事連)、
小澤 (電工会)、倉田 (原安進)、示野 (ATENA)
高橋・古田・朝岡・西・岩島・喜多・山本 (NRRC)

4. 議事概要

(1) 2020 年度 NRRC 研究開発の状況について

○NRRC より、2020 年度の研究開発の状況として、「津波 PRA パイロットプロジェクトの進捗状況報告」、「PRA の活用と高度化に係る検討状況」、「NRRC 地震 PRA プロジェクトの進捗状況」について報告がなされた。

(主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員)

◆津波 PRA パイロットプロジェクトについては、4 年間の膨大な検討の成果をこれから取りまとめて頂くということだが、それを全体として一気通貫で見ていくことも非常に重要なことだと考えている。個々のものがどのような位置付けになっているかが分かるような取りまとめを冒頭に付けていただきたい。

◆PRA の活用と高度化に係る検討としてご紹介頂いたフィンランドの事例についてだが、情報共有を超えて、どういう解釈、どういう思想、どういう力量、体制を持った人たちが、何をしたらこのようなことが実現できるのか。これを実現するための必要な要素を分解することや、実際に実施に至るようなところまで思考を深めて頂きたい。

◇そのまま日本に適用するかどうかは別として、どうしたらこれが実現可能かについて、整理させて頂きたい。

(2) NRRC の活動状況について

○NRRC より、「RIDM チームの活動状況について」の報告がなされた。

◆RIDM プロセスの適用範囲の拡大の部分で、OLM を稼働率向上につながる策として進めていくということだが、この点についてはぜひ進めて頂きたい。ただし、将来的な活用を見越した時に、リスク評価はもちろんだが、意思決定を誰がやるのか、実際のプロセス、発電所の中でどのようにやるかという部分が非常に大事なので、米国では具体的にどのように運用しているかを見て頂きたい。

以上